

2015年5月2日
西名 慧史（17期）

2014年度 茨城大学OLD オフィシャル活動報告

1. 就任に至る経緯

学生からの依頼が口頭で行われたもので掲げた目標を思い出すことができませんでした。深くお詫び致します。2014年3月当時、内々にオフィシャルを依頼されていましたが、4月に入った段階で部長が不在となり部内がまとまっていなかった状態で長老杯を迎えてしまい、オフィシャルを承認したという経緯があります。2014年5月3日の長老杯にて学生に私の現状を説明しました。

- ・社会人で自由時間が短く、居住地も異なるので、オフィシャルからの発信は困難である。
- ・練習会や競技的なことについて、学生側から質問や意見してもらい、返答することで事柄1つあたりの時間を短くする。

以上2点により『OLDの活動に対してオフィシャルは受動的に活動する』ことを説明し、学生から承諾を得ました。年間目標は伝えられた気がしますが、記録として残っていないので割愛させていただきます。

2. 活動報告

2014.06	ロングセレ前練習会 関東学連ロングセレ	2014.10	インカレロング
2014.07	ときわ練習会 紫陽花合宿	2014.11	ミドルセレ前練習会（1回目）
2014.08	夏合宿	2014.12	ミドルセレ前練習会（2回目） 関東学連ミドルセレ
		2015.03	インカレ前練習会（部内セレ4戦目） インカレミドル&リレー

上記はオフィシャルとしての活動割合が高いものを挙げており、各地の大会や練習会などに参加した際には学生に指導や相談を行いました。アナリシスの提出要望は、各大会での総評時に呼びかける程度で、基本的には学生からの自主的な提出に委ねました。提出方法は電子メールおよびオンラインストレージサービス（Dropbox）にて行いました。

2-1. ロングセレ前練習会

栃木県日光市『不動の滝（南）』 学生：13名 OB/OG：11名

各所へ呼びかけを行った結果、お手伝いしていただいたOB/OGのうち4名が外部の方で、学生だけでなく六国会員も良い刺激になったのではないのでしょうか。

設置は各班とも距離を長くにとって以下のように練習の中の1つとしました。

- ・ルートプランを立てて、ポストがない状態でも速やかに特定する。
- ・長い距離でも時間内に設置を終えて練習時間に合わせる。

午前の練習はOB/OGの数に任せてマンツーマン指導をしてもらいました（一部は2人組でしたが）。1年生は基礎の習得を、上級生は線状特徴物を正確に辿ることが目標でした。ただし、

指導するOB/OG側に『具体的に指導する内容』を伝えていなかったため、学生のどこに着目するのか戸惑ったという意見を受けました。指導を考える場合は事前に指導内容を伝えるべきだと思いました。

メインレースは大雨の影響もありましたが、1年生クラスが難しく完走者1人となってしまいました。まだオリエンテーリングを楽しんでもらう段階なので、私が考えている難易度から2段階下げても良かったと思いました。また、スタート閉鎖後にフィニッシュへ荷物移動を行いました。撤収後の帰路を短くするためスタートとフィニッシュを異なる場所に設定しましたが、全員分の荷物をOB3人で運ぶことは難儀を強いられましたので、お勧めはしません。

2-2. 関東学連ロングセレ

埼玉県飯能市『七国峠(飯)』 学生：9名 OB/OG：2名

埴さん(8期)に参加していただき学生のサポートを行いました。指導者という立場ではまだまだ未熟者の私に代わり学生への助言も確かなもので学ぶことが多くありました。

選考クラス通過者は出ず、完走者が2名と厳しい結果となりました。ロング競技なので時間内完走の可否が明確に分かれるレースで、普段の練習量が顕著に表れていると思います。

2-3. ときわ練習会

茨城県笠間市『笠間芸術の森公園』 学生：6名 OB/OG：1名

ときわ走林会内向けの小規模練習会ということで、基礎を習得してもらおうと思いました。

1年生にはこのときに直進を教えて、反復練習を行いました。

2-4. 紫陽花合宿

栃木県日光市『日光例幣使街道』『毘沙門山』 学生：21名 OB/OG：7名

学生の人数に驚きましたがそのうち10名が1年生なので、2015年度もこの調子で新歓を頑張っていたきたいと思います。

今回は合宿の両日で異なるトレインを使用しました。これは学生の要望で、2日目メインレースのトレイン情報を1日目の練習時に知られないようにとのことでした。

公平性が保たれたメインレースではありましたが運営の負担が大きく、1日目の配慮を行う必要がある場合(1人が両日も仕切る場合)は同じトレインである必要性を感じました。実際に、メインレースの設置を行っている最中に雷が鳴ったことで、学生に練習中止を促す連絡を行いましたがとても負担を感じました。競技レベルが向上しメインレースの公平性を保つ必要がある場合は、異なるトレインでも構わないと思います。

この日も雨で、計時をしつつ記録用紙に記入を行っていましたが、8人連続でフィニッシュしたときに計時が追いつかなかったことがありました。記録方法に工夫が求められます。

難易度は上級生も1年生も適切だったようで、2時間以内に全員が完走していた。また、上級生の前半は1年生コースでもあったため、全員のラップが比較できました。

1日目の練習は、午前が狭い範囲でのランダム直進、アタックポイント固定のサーキット、午後はミニレース。ミニレースは予習を許可し、直前の水練から合宿当日までコースを見て対策することができました。意図としては、『準備してレースに臨む姿勢』を身に付け、事前に立てたルートプランを当日は辿るだけで、理想のレース展開を実行する。あえて公平性を欠かすことで、

意欲的に準備した者が上位に立てる状況を作りたいと思いました。しかし、雷の影響で中断となったので、この練習方法が効果的かどうかは検証の余地があると思います。

夜メニューはオリエンテーリング指導教本から抜粋してルートチョイスとプランニングについて読み合わせしました。しかし、単調な読み合わせだったため退屈を感じる学生が多く、自ら考えて手を動かすなど改善の余地があります。

2-5. 夏合宿

静岡県富士宮市『村山口登山道』『勢子辻』『鳥追窪』 学生：15名 OB/OG：10名

今回の黄門杯は学生に設置を行っていただきました。これは2日目昼までに動ける人が鍋谷さん（17期）のみで、3日目の練習を学生への指導に当てたいと考えた場合、私が3日目から参加し試走を行うまでに設置が完了している必要がありました。そのため、1日目に黄門杯（4日目）の設置を行い、例年行っている3日目の設置は3日目当日に行っていただく形をとりました。これも社会人となり自由時間を確保できなかった弊害であり、反省点の1つと言えます。

しかし、設置を依頼したことで公平性が損なわれ、実際に八兵衛クラスでは影響があったようです。今後もこの形を考える場合は設置方向と、レースにおけるアタック方向を考慮する必要があると思います。

参加される六国会員によって到着と離脱が異なるので、車の使用可否や送迎の予定を作成するところで時間を食いました。また、学生からの招待はがきに必要性があるのか疑問です。

当初は『丸火自然公園』で黄門杯を行う予定でした。2007年度の黄門杯を流用することで運営負担を軽減させようと試みましたが、トレインが使用できなかったため頓挫しました。過去のコースを流用または参考にすることもまた1つの手段だと思います。

2-6. インカレロング

福井県あわら市『あわら迷宮』 学生：7名 OB/OG：4名

選手権クラス出場者はいませんが、遠方の福井県まで行き観光も兼ねることができたので、オリエンテーリングの取り組み方の1つを体感できたと思います。

2-7. ミドルセレ前練習会（1回目）

茨城県笠間市『佐白山麓』 学生：17名 OB/OG：4名

福島大OLCとの合同練習でした。近場のトレインで行った理由は、同日に茨苑祭の打ち上げがあり、日を重ねれば学生参加者の増加が見込めたこと、ミドルセレまでまだ期間があったため2回に分けることで同質のトレインでなくとも基礎的な練習を行うためである。今回はメインレースを設定せず、4つのサーキットを各自で回る形式をとった。

2-8. ミドルセレ前練習会（2回目）

茨城県水戸市『木葉下』 学生：10名 OB/OG：4名

前回に引き続き福島大OLCに参加していただきました。今回はメインレースを行い、他大学との競争意識を持って臨んでもらおうと考えました。この2回について合同練習の企画を行っていただいた南家さん（18期）に深く感謝します。

2-9. 関東学連ミドルセレ

栃木県日光市『不動の滝（南）』 学生：19名 OB/OG：2名

椎名さん（23期）が選手権Bクラスの出場権を獲得しました。普段の練習が少しずつ積み重なり得た結果だと思います。

私はチャレンジクラスで出走しましたが、難易度は高くはないだけに地図を読み込まないと速さは出ず、上位に食い込むことは困難なコースと感じました。学生には普段から走力と地図読みを行ってもらいたいと思います。

2-10. インカレ前練習会（部内セレ4戦目）

栃木県日光市『日光例幣使街道』 学生：9名 OB/OG：5名

インカレの前週に急ぎょ行いました。これに至った経緯は、部内セレを3戦（ジュニアチャンピオン大会、筑波大大会、ときわウィンターキャンプ）行った時点で参加資格となる2戦を消化した学生が3名未満だったことにあります。主に4年生（21期）が卒論作成の時期と重なり参加できなかったことが原因で、その辺りを部内セレ設定時点で追求できなかったことは反省すべき点です。

準備期間が短かったため、メインレースは2009年度のインカレミドルで使われたMEA/MEBのコースを流用しました。1年生に対してはMBのコースを使用しました。ただし、スペクターズレーンに迫る民家付近は省略したため、完全同一コースではありません。

部内セレクラスの完走者は井坂くん（23期）のみでしたが、無事に部内セレ資格者を3名揃えることができました。1年生クラスは難易度の設定が難しかったためMBクラスを使用しましたが、全員が40分以内で完走したのでインカレに向けて勢い付いたレースだったと思います。

2-11. インカレミドル&リレー

愛知県新城市『作手高原』 学生：15名 OB/OG：10名

足を負傷した稲田くん（23期）が欠場ながらも同行していたので、サブオフィシャル的業務を依頼しました。私がインカレに関して事務的な面で把握していないことが多々あったので、サポートしてくれる人がいたのはとても助かりました。把握しきれていないことの1つに、リレーの女子選手権クラスで混成チームを組んでいたことが挙げられます。茨城大からの小川さんと椎名さん（共に23期）と関東学院の田中さん（1年生）で組みましたが、私は当日まで顔合わせしておらず、リレーオーダー方法も通常と異なっていた上に配布内容が誤っていることに気がつかずとても焦りました。

ミドル競技、男子は稲田くん欠場のため代走なし、女子は椎名さんが選手権Bクラスで出走、9位でした。全体で36人いたことを考えると良い成績で、着実に成長していると思います。

今年の選手権クラスはAとBでコース内容が別ものとなり、特に選手権Bクラスは一般クラスに近いコースでした。個人的に選手権Aクラスと同じコースであることに意味があると考えていたので、今回の選手権Bクラスは残念な気持ちが一部ありました。

リレー競技、男子は稲田くんが欠場のため、部内セレ結果により長谷部くん（21期）を繰り上げてチームを組みました。リスタートとなり結果は23位。女子は21位だったものの、椎名さんと小川さんで繋いだ2走までの成績が7位であり、今後の3人目によっては入賞も見えてくるのではないのでしょうか。

3. 結果

目標が設定されていないためここではインカレ関係の成績を記載します。

- ・ロングセレ 通過ならず
- ・ミドルセレ 椎名さんが16 / 58位で女子選手権Bクラス通過
- ・インカレミドル 男子：学校枠未使用
女子（椎名さん）：9 / 36位
- ・インカレリレー 男子（井坂-岡田-長谷部）：23 / 23位
女子（椎名-小川-田中）： 21 / 21位

4. まとめ

部全体に向上心は感じますが、まだまだ練習量が足りていないと言えます。男子のリレーが、順位の付いている中で最下位ということが、練習量からして他大学と大きな差があることを示しています。下位脱出を目指すべく練習してもらいたいと思います。

1年間見てきて、オフィシャルと学生で求めている『目標』と『結果』に齟齬があるような気がしました。私は『目標：楽しくオリエンテーリングしてほしい』、そのために『楽しく取り組める程度までの努力』をして『結果：中堅程度の実力がついて選手権クラスにも出場できた』という経験から考えていましたが、学生には伝わっていないのではないかと思います。所詮、私は趣味の範囲でオリエンテーリングに取り組んできましたが、学生にとってインカレの選手権クラスへの出場が趣味の範囲かどうかは個人差があります。私が学生の頃はまだ選手権出場枠が多かった時代です。予選決勝方式から選手権A、Bへ変更されたときも総数は変わりませんでした。今年度から選手権Bクラスが廃止されたことで総数は減るでしょう。そのときに、学生が『選手権クラスに上ること』を目標とするかは疑問です。私は「選手権Bクラスなら趣味の範囲で努力して通過できるが、Aクラスとなると趣味を逸脱する。相応の覚悟を持って臨む必要がある」と思います。特に女子には『競技指向として上を目指す』姿勢を感じました。

よって、私が学生に求めても私の意図が伝わらなければ、あるいは伝わっても目標と結果にズレがあるならば私の求めるような結果にはなりません。オフィシャルの求める結果に沿って取り組んでほしいならば、最初の依頼時によく相談をして承諾してもらう必要があります。年間目標に対して段階的目標（四半期目標）を設定することで目先のハードルを下げることも1つの方法です。また、結果を数値化することでオフィシャルの偏見をなくし、情性に流されて業務継続することもなくなるのではないのでしょうか。

練習会の運営を手伝う際には、運営を取り仕切る者と、試走など実行する者を分けた方が良いと思います。スケジュール通りに進まないことが多く、運営の判断を仰ぐ必要がある場合に試走中で不在という状況は避けるべきです。私は試走に意欲的だったため、運営を仕切る側には元から不向きだったと言えます。

2回目のオフィシャルとして取り組んで参りましたが、皆さまの援助あつての結果でした。厚くお礼申し上げます。